

僕も勇気を与えたい

心の扉を開いて

共に生きる兵庫

第2部「学ぶ・働く」 ②



真野剛さん(左)を励ます「プロップ・ステーション」理事長、
—神戸市東灘区で

(神戸市東灘区)理事 ば、活躍できる」。講として、何かできるか
長、竹中ナミさん(70) 演でナミねえは、熱く もしれない」。勇気が
—愛称・ナミねえ—の 語った。ベッドの上で 湧いて来た。
講演会だった。ICT パソコンを操作して、 後日、剛さんはナミ
(情報通信技術)を駆 グラフィック・デザイ ねえに「好きな英語を
使して重度障害者が在 ンの仕事をする重度障 生かした仕事をした
宅でパソコンを使って 害者の例などを紹介し い」というメールを送
働く環境を整えるな た。「彼ら彼女らが誇 った。講演で一度会っ
ど、障害者の就労を支 りを持てるように、福 たきりだが、この人な
援してきた。自身も重 社の受け手から社会の うな気がした。すぐに
症心身障害の長女(46) 支え手にしたい」と訴 返事が届いた。「じゃ
を抱える母親だ。 えた。

「障害者はいかかわいそ ナミねえの話に、剛 あ、この文章を英語に
うな存在とは違う。能 さんは心を打たれた。 翻訳してみた」。ナミ
力を引き出しさえすれ 「自分も社会の支え手 ねえは、翻訳の仕事を

自立目指し一人暮らしを計画

害などを持つ人にヘルパーを派遣する自立支援制度「重度訪問介護」を利用、サポートを受けながら自活する。

これまでは両親に介護を頼ってきた。関西国際大に進学した後も母容子さん(59)に全授業に付き添ってもらい卒業できた。だが、いつまでも両親に介護の負担を背負わず訳には達していない」といかない。親子後どうするかも考えた。

だが、ナミねえは彼の積極性と社会に出たいという意欲を買った。2年前から剛さんは週1日、プロップに通い、スタッフから英語の翻訳作業の指導を受けるようになった。彼はこの機会にあらゆることを吸収しようと、熱心に取り組む。ナミねえの影響を受け、講演会で自らの障害も語る。自分も多くの人に勇気を与えたい。そんな剛さんに、ナミねえは「少しずつ役割を担ってもらい、将来はプロップの正スタッフとして活躍してもらえたら」と期待を寄せる。

剛さんは自立に向けて歩み始める。高砂市内にアパートを借りて、一人暮らしをする計画だ。重度の身体障

※次回は6月3日掲載予定です。

【桜井由紀治】

—つづく

全盲で、脳性まひの重複障害もある真野剛さん(26)は高砂市。2015年、関西国際大を卒業したが、その先の進路をどうするかという問題が残ったままだった。就職するにしても、どの企業も自力通勤など厳しい条件がある。常時、介護が必要な重度障害のある人にとって、就労は厚い壁となっていた。剛さんが思い悩んでいた頃、相談支援専門員から播磨町である講演会を紹介された。社会福祉法人「プロップ・ステーション」